

■10月14日

日航・全日空、羽田昼間時間、発着配分全枠、IATAに申請-2014年夏ダイヤ

(トラベルビジョンによると)

日本航空と全日空は10月10日、先ごろ発表された羽田の昼間時間帯発着枠の配分を受け、IATA(国際航空運送協会)に対し2014年夏ダイヤの路線を申請した。

NHは配分された11枠の全てで路線を申請。「権益を11枠全て行使する」方針(NH広報室)だ。また、成田についても「スロットエントリーという意味では、今までと同レベル」を申請したと説明。ただし、市場の動向や競合他社の状況を見極めながら、今後NHの路線計画を決定するとしており、状況次第では「減らすこともあるかもしれない」と述べた。

また、JLも割り当てられた5枠の路線全てを申請。同社は国土交通省の配分を「到底承服できるものではない」とし、配分の是正を求めて国土交通省宛に文書を提出していた。しかし、10月10日時点で国交省から返答がなかったことから、「これでよしというわけではない」(JL広報部)が、まずは5路線を申請したという。今後は国交省に対し、是正の配分を求めるとともに、提出した文書に対する回答を待ちたいとしている。

(トラベルビジョン)10/13

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59184> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59184>)

中国南方航空、新千歳—広州線就航、使用機材はボーイング787

中国南方航空は11日までに、12月から新千歳—広州線の定期便を週4往復運航する方針を決め、国交省に届け出た。また、昨年10月から運休中の新千歳—大連線も、来年4月から運航を再開する方向で最終調整している。

北海道新聞によると、広州と道内を結ぶ定期便の運航は初めてで、同社は「雪を楽しむ観光客の利用が見込めると判断した」と説明している。毎週火、水、土、日曜に運航し、機材は最新鋭機ボーイング787(228席)を予定。国交省新千歳空港事務所などによると、運航開始は12月3日を軸に調整中だ。新千歳発着の国際線にボーイング787が乗り入れるのも初めて。

また、来年4月以降の運航については広州線の継続と大連線の再開を目指し、新千歳の発着枠調整に入った。

(北海道新聞)10/12

<http://www.hokkaido-np.co.jp/news/economic/497633.html> (-> <http://www.hokkaido-np.co.jp/news/economic/497633.html>)

航空6社、沖縄関連路線、9月搭乗実績、昨年同月比9.8%増

沖縄関係路線を就航する航空6社(除LCC)の9月搭乗実績は、石垣線の新規就航効果や台風が少なかったことなどから、合計搭乗者数は前年同月比9.8%増の142万7676人となった事が分かった。

琉球新報まとめによる、航空各社の実績は以下の通り

- ・日航は前年同月比3.0%減の28万377人。那覇と羽田、伊丹、成田を結ぶ各路線は増加したが、那覇—関西線のJTAへの移管で全体は前年を下回った。
- ・全日空は10.5%増の64万3320人。那覇—羽田6.2%増、那覇—伊丹64.5%増、那覇—福岡13.4%増と好調だった。新規の石垣—羽田、石垣—名古屋の効果に加え、那覇—宮古も20.6%増と伸びた。台風による欠航は昨年の1割以下にとどまった。
- ・日本トランスオーシャン(JTA)は4.7%増の25万357人、利用率も2.9ポイント伸びた。県外は那覇と関西、福岡、岡山、中部を結ぶ4路線が2桁の伸び。県内は那覇—石垣が5.9%増。昨年215便あった台風による欠航は4便だった。
- ・琉球エアコミューター(RAC)は3.8%増の3万3425人。那覇—奄美が伸びたほか、JTAから移管された石垣—与那国の純増効果も大きかった。
- ・スカイマークは石垣と那覇、成田、神戸の新規就航効果で36.0%増の18万1776人。その他7路線中6路線で前年を上回った。
- ・スカイネットアジア航空(ソラシドエア)は61.3%増の3万8421人。那覇—神戸の新規開設のほか、那覇—鹿児島が

29・5%増、那覇—宮崎が15・4%増と堅調に伸びた

(琉球新報)10/12

<http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-213715-storytopic-4.html> (-> <http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-213715-storytopic-4.html>)

アリタリア航空、400億円増資計画

(日経によると)

イタリアのメディアによると、経営難に陥っている同国航空会社最大手アリタリアの役員会は11日、株主からの増資3億ユーロ(約400億円)を中心とする資本増強計画を承認した。

イタリア炭化水素公社(ENI)が代金未払いを理由に燃料供給をやめると警告するなど、アリタリアが近く運航停止を余儀なくされるとの見方が強まっていたが、これで破綻が当面回避される見通しとなった。

増資には政府が支援策として打ち出した、イタリア郵政公社による7500万ユーロも含まれている。ほかに銀行から新たに2億ユーロの融資も受ける。

(日経)10/13

http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM12016_S3A011C1FF8000/ (-> http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM12016_S3A011C1FF8000/)

キャセイパシフィック航空、2014年夏スケ、北米線強化

キャセイパシフィック航空は、2014年夏スケジュールにおいて、香港—北米線を重要な路線と位置づけ、増便や柔軟なスケジュール対応を行う。

トラベルビジョンによると、同社は2014年6月から、香港—ロサンゼルス線を1便増便し、1日4便で運航する。また、14年8月2日からは、現在デイリー運航をしている香港—シカゴ線を増便。週3便を追加し、週10便で運航する計画だ。2路線とも政府認可申請中。

なお、ロサンゼルス線の使用機材は、ボーイング777-300ER型機で、ファーストクラス6席、ビジネスクラス53席、プレミアム・エコノミークラス34席、エコノミークラス182席の計275席とした。

また、シカゴ線はボーイング777-300ER型機で、ビジネスクラス40席、プレミアム・エコノミークラス32席、エコノミークラス268席の計340席。

(トラベルビジョン)10/13

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59181> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59181>)